

近郷古跡

箕尾谷塚三存翁四郎が出生の地也此所に五輪山  
龍國寺真言と云有其境内に四郎が塚とて幽成一石  
塔有銘文も見へず年久敷事に入たしかあらず  
大道寺塚吉村川越山常樂寺時宗と云駿河守墓  
とてあやしき石塔有銘文と見へず古し一犬竹  
村に有しと云假上廟所と云證もあけ水いふ  
かりき事也  
治衛塚淨蓮坊城主伊豆守殿家中に吉田治衛正次  
と云者有かれは生國江州の者にて始大坂方森

豊前が手下に屬し戦功有落城以後は酒井山城  
守重隆雅樂部忠實に仕官し重隆備州に配流是よ  
り志く豆州の恩顧にあつかり川越に居住し齡  
七十にして身まかる此地は下屋敷成により寛  
永三茅庭の松を植體骨を塚に築傍に幽成一寺  
を建る吉田山本明院扶名高松院黒塚倉驛東光寺  
と云に其舊跡有侍黒塚は紀州那智の光明坊省  
慶雲鬼退散の地也奥州安達の黒塚山に鬼神住  
しと云は勢州鈴鹿山丹州大江山の類ひにして  
皆強盜也往日此所に屬女有人民を苦むむ時



の人足を恐奥州安達に對してかの女の狂行を  
黒塚と云ふいへり一森の内大樹七八本有りて  
塚の形はふし當所の民さいつもの熊野まうでの  
こきり那智山にして由緒を尋けるに寺記を書ふ  
されける教通今に有熊野の光明坊は熊野上綱  
の棟梁也天正の亂に系圖散失してしかと其わ  
けしれず世に東光坊阿耨梨祐慶は當山の光明  
坊也熊野の威光関東に輝と云ふ心トや東光坊と  
云此所に來り屬女を教化して佛道に入しむる  
を悪鬼退散とはいふあるへし鬼は女の下界に

えかりにも鬼のすたく也と云は女の物語をよ  
みし歌也傍に一寺を造立し東光寺と号昔は天  
谷の情舎也しか今は曹洞の靈場と云れり黒塚  
の舊跡を東光寺の地の傍にあつて則塚内也  
養竹院櫻花三保谷寛永七申二月大樹象光公御鷹野  
の折から此處に立よらせけるに折から庭前の  
色櫻爛漫たり

白糸をかけたみたしたる三保谷の櫻をけふの

あかしと云みる 御製

此御詠によりて櫻に少しの鎖を附し水たり



寶永五戌子九月四日

太月天源榮資 照月院殿智達道宗庵主

享保十一酉午十一月五日 生年十歳

日好月好屋鋪野田下屋敷構にしてあやしき所あり其かたち斗残りてわつかの竹藪也昔日好大夫月好大夫と云遊君の住せし所と云傳へたり古代白拍子と云類ひふるへし

堀兼井七曲井武藏野堀金村小高き所に淺間の社有其禁危の方窪める所是堀兼井の所也方一間半の石を築して井桁とし名所方角好にも

堀兼井は入間の近所と有清少納言と井はつりかぬとや、れたり

武藏武藏野のつり兼の井と有ものを嬉し哉水に近付にけ足 俊成

碑銘 高五尺六寸横二尺四寸 依城主喬知命建之

此凹形之地所謂堀兼之蹟也恐久而遂失其處因以石井欄置砌中削碑而建其傍併以偕後監

里語堀而難得水故云余兼通難未知只從俗耳

寶永戌子年三月朔



此あたりに堀兼の井と稱する所多し此所は淺  
間堀兼といへる此南五天町か程にも井の所と  
て有いつれ本所とはみへかたしすへて水を製  
くは低き所こそかれ一段高き所井を堀事信用し  
かたし又入曾と云里堀兼より半里斗南の方也  
此所に七曲り井と云有是も堀兼といへりすべ  
し此邊土地曷くして水を得かたし依て井の廻  
りに小板を付めぐり下りて水遠く程よき所よ  
り汲事也されは堀かぬたると云理を以其名有  
との里語也いみ深しといへともさのみ堀かぬ

たるにあらざる堀金村の名所あれば堀金の井と  
云にせり村の名は金の字兼の字を出よりつ  
りかぬたると釋して跡をよほしたるもの  
也入間郡に有川を入間川と云とひとし下總の  
真間の継橋も継たるはしにてはあし真間の橋  
成を継の字出たる故継はしと云堀兼も此類の  
也

**逆水** 武藏野内 廣原の内にも有て誠の水にあらざる  
畏の草も若く生きたち簾か成春の空に地氣立  
こふたよりみれば草の葉赤ましろくと水の流



ることとみゆる其所に至りて見れば其影も亦  
し又向に流ることくかけ有いつく道も其所をさ  
ためす行程先へ逃行様成故かく名付たり春よ  
り夏かけ入有事也

東路に有りといふ成逃乃のにけ隠れもせ  
と過す兵俊頼

志水 武藏野内露村 此所に流れ来る野水有其水上  
は箱根崎より出て、當所の里民忠助が屋敷の  
裏竹藪の中にあられとよる清潔の志有也いか  
ふるよにや其源はあられ共水しもあし忠助先祖

いふわしき事に思ひ或時おふくかの水に墨を  
あしけるにい、程ありて新河岸村の辨天のみ  
たらし墨水とあられ思ふに正敷水野の志みに  
てもあるらん其間二里程野山を隔て此所にあ  
らはれしは水屋と云ふても有やいふわし

梶原地 池邊村 此所にわつか計りの小池有いと  
く也頼朝奈須野御狩の歸りきた馬をひやしけ  
る所也とて水底に鞍一満池の主と成入有是此  
地は梶原平藏の領地のよし

狭山池 熊谷驛より二里程西方見加戻と云所御領國と成



て三宅惣右衛門康貞の領地也此所に狭山が池  
と云有其山はあすや其所にちいさき山有それ  
を狭山成へしといへは所の者は池の名はり  
へ狭山とはいわす

續古今秋風にあはく狭山の葛かつらくるき心  
恨むわらふ

千載五月やみ狭山が峯にともす火は雲の網向

の星かとそみん

かくよみも此所ふるへし堯惠法師の記行に  
弥陀と云所にあかりて武藏野をわけ野經のは

とりに名にきこへし狭山有朝の霜をふみて中  
くにわつが成山のすえにかたき計りの池有  
氷いれ河のかれ野をふみ分けそゆくは狭山  
の池の朝風

是によりて見ればよきにちかひあし名高き名  
所を誰しる者もふく其跡をうしのふ事も悲敷  
にありすや

火片貝井伏村此所に長さ壹里程幅半里計の沼有  
其内に一つの浮島有て薬師佛を鎮座せり此沼  
の内火片貝住の凡火二三間程のよし世俗



に洪水の時ばかりの貝此嶋をせおふて水上に浮  
むといへり年久敷住しに也今は此沼のぬしと  
あれり

大蓮寺火三國田中三有幽成塚有年々夏より秋かけ  
て夜珠に火さ壹尺計の火の玉飛出宮中を迷ひ  
行雙をおすあらぬは人民さしておとれず近郷  
を飛廻り曉方は本の古塚に歸る柳昔此所ト火  
蓮寺と云山伏有いおある迷おらん死ん後一念  
の魂灼靈火とふれり近頃はとこしおいた成て  
人音のする方はは自然と飛來る事也世に此類

ひ多し豊後の不知火津國の二根坊の火 宮の  
火皆此類也河内に姥火と云有いつの頃哉旅人  
此火に逢飛來りて面前に落府て蜜にみれば鳥  
のことくくとしし音を叩音有忽去て遠くみれば  
まとかある火の玉也おつたは是鳩也大蓮寺火  
も此類ひにへも有哉

星精の火は天の陽火 金木の火は地の陽火 靈火  
は人の陽火也 龍火 雷火は天の陰火 石油の火は  
地の陰火 相火 下火は人の陰火也 狐 鼬 鷄 螢 蛛 の  
火は 違能としし火にあらず 寒火 陽焰 金銀精氣



の火は陰火にして物を焚す石灰桐油麦糖馬鳥  
の糞より出る火は陽火にして物をやく雷火は  
陰火これとも物をやく是陰中の陽也信州淡間  
肥州阿蘇山奥州焼山乃火は砂石をやく是また  
陰中の陽火也

**岩井堂**

井草村落合此堂ひとせ 茨水に堂舎あが

此所の本尊淡草川にあかれ濱城武成が網に  
かゝり給ふ淡草観音是也其堂の升形あかれと  
とある所升形村と云

**野火畠** 野火村川越分屋債此所をかく名付事 首業

平女をかたらい隠れけるを道來る人此野は盜  
人ふん有として火を付けるに

物語武藏野はけふはふやきと若草の妻もこも  
れり我もこもれりかゝもみ給しより其火此所  
にんと、おりけるよりの名とあり也鬼鹿毛松野  
火畠いにしへ小栗判官手飼の鬼鹿毛此所に來  
り果しを所の者其印として小松を植しか枝葉  
さかへし今は落たる太夫松とあれり傍に觀  
音の像を建り思ふと小栗の廟は相州藤沢清淨  
光寺に有いかふるわけに久鬼麻毛此所に來り



し哉いふやしき事也

柏原城跡 柏原村 此所に城所と云事上杉の城共云  
又新田義興の城とも云義興此所に在城といふ  
る事いまた舊記に不見鎌倉に出陣の志一有し  
時陣屋にも有し哉上杉の陣屋也とも云せ川  
有北条小田原より柏原に出張せし所か上杉憲  
政古河公方晴氏砂窪まで出陣して関東勢を催  
し給ふ事は北条の出にも見へたり柏原城と云  
事舊記に見えすおほつゝありし  
上戸城跡 上戸村 昔川越の城地のより天神縁記に

もあり世人みふいふ事也上戸の城といへる事  
いつれの出にも見へず思ふに上戸村鯨井村と  
隣にて一所の地也今上戸の城跡といへるは舊  
記に鯨井の城成へし鯨井の城は北条家持國の  
時宮城美作守宜好居之御領國とあり戸田丸門  
一西在城す其後廢城とあり此城に有竹木の類  
みお川越に寄たりと云此言を以て世俗に城を  
移せりと云成るへし

松山城跡 比奈郡 此城は北条家持國の時上田安樂  
才正景在城御領國と成り松平内膳正家廣居之



其後廢城におれり今に大手惣堀の所椿馬出的  
然として其儘有永録五年氏康此所を責し時の  
籟塚として所々に其跡残り外曲輪と覺しき所  
岩山に洞のことき穴凡百計も有へしいか様合  
歎の時分此穴に宿りしとの哉世俗には上代火  
の雨降し時堀し穴放と云傳へし事也

新河岸嶺山 大塚右近櫻 岸村梅屋鋪  
的場村狼塚 高嶋九十橋 大仙波猿坂  
杉下姥ヶ池 中臺駒留原 荒宿雀ヶ森  
杉下柳馬場 武藏野木宮地蔵 野田下龜甲塚

懐古來歴不詳其目錄而已記し大尾とす



M602AJ4

大正六七八年

依帝國圖書館本

伊藤泰吉  
大澤福次 寫之  
伊藤俊平



此書(多滯在の雁)は若志、陽盛風とあるは  
秋元系、臣、及老職、大陽寺、在り大陽寺、在り盛嵐  
仙坡中院、大陽寺あり、墓あり  
◎墓所、市誌に基り  
山平系、在り